

平成 22 年度

第 2 / 3 回

(地域別研修)

南アジア地域 小学校理科教育の質的向上
(「教えと学び」の現場教育)

実施要領

平成 22 年 10 月

独立行政法人国際協力機構 (JICA)

Japan International Cooperation Agency

目 次

1. 案件基本情報	1
2. 案件の背景・目的	1
3. 案件目標	1
4. 単元目標	2
5. 研修成果品	2
6. 研修員参加資格要件	3
7. 研修実施体制	3
8. 研修の評価	4
9. 研修付帯プログラム	5
10. 主な宿泊場所	5
11. その他	6

付属資料

付表 1 研修員関連情報

付表 2 コースカリキュラム（予定）

付表 3 日程表（予定）

付表 4 年度別受入実績表

1. 案件基本情報

(1) コース名

和文：(地域別研修) 南アジア地域 小学校理科教育の質的向上 (「教えと学び」の現場教育)

英文：Region Focused Training Program on “Quality improvement in Science of Primary Education (“Teaching and Learning ” at on-site education)”

(2) 受入期間

平成 22 年 10 月 11 日 (月) ～12 月 18 日 (土)

(3) 技術研修期間

平成 22 年 10 月 18 日 (月) ～12 月 17 日 (金)

(4) 定員、割当国

受入人数：9 名

割 当 国： ブータン、バングラデシュ、ネパール、スリランカ、アフガニスタン、
パキスタン (下線は受入国)

(5) 使用言語 英語

(6) 研修類型 人材育成普及型

2. 案件の背景・目的

開発途上国にとって理数科の素養を国民が兼ね備えることは、産業発展の礎である。南アジアの国々は近年好調な経済成長を遂げており、これを中長期的な発展につなげるために、理科教育の強化、特に質の改善が非常に重要な課題となっている。

さらに、これまで過去 10 年以上にわたり南アジア諸国を対象に類似の研修を実施した結果、帰国研修員により初等理科教育の授業に簡易実験が導入されつつある。今後はその普及と定着が組織的に図られることを目指す。

3. 案件目標

研修員の所属する教員養成機関の再訓練を受ける現職教師および学生により、暗記に頼らない簡易実験の導入や学習指導案の作成を通じた理科実験の教授手法が共有される。

4. 単元目標

- (1) 日本の理科教育現場を理解し、自国への適応可能性を検討できる
- (2) 初等教育に係わる幅広い理科簡易実験や実習を理解・体験し、実際に実施・開発できる
- (3) 課題設定、課題解決のプロセス、授業評価などの基本要素が含まれており、かつ児童の学習段階に応じた初等理科指導計画を作成できる
- (4) 理科教育手法の普及にかかるインテリムレポートが作成される

5. 研修成果品

- (1) 本邦研修実施前

「初期報告書（Inception Report）」の作成

研修の主題にかかる研修員および所属組織の課題やそれに対する現在の組織としての対策・枠組みをまとめ、本邦でのコース開始時に発表する。

- (2) 本邦研修終了時

「中間報告書（Interim Report）」の作成

研修で学んだ知識や技術等を基に自国での活動計画（案）を作成し、コース終盤に発表する。

- (3) 帰国後の事後活動

「最終報告書（Final Report）」の作成

研修員は帰国後、中間報告書に書かれた自国の活動計画（案）を所属組織に報告、関係者と共有のうえ、最終的な活動計画（案）をまとめ、帰国後6ヶ月以内に JICA 帯広に提出する。JICA 帯広は同報告書を関係者と共有のうえ、次年度以降に実施される研修に内容をフィードバックし、必要に応じフォローアップを検討する。

6. 研修員参加資格要件

(募集要項記載条件)

- (1) 初等理科教育に関する①カリキュラムの開発、②教授法、③政策・制度に関する知識を有する者。
- (2) 初等教育の教員養成学校教官で、当該分野において5年以上の職歴を有する者。
- (3) 初等教育に関する簡易理科実験の開発と普及に携わる者。

(各案件共通資格要件)

- (4) 所定の手続きにより割当国政府から推薦されること。
- (5) 大学卒業あるいは同等の学力を有すること。
- (6) TOEFL iBT 72 点 (CBT 200 点／PBT 533 点) 以上に相当する英語能力を有すること。
- (7) 心身ともに健康なこと。
- (8) 軍に属していないこと。

7. 研修実施体制

本案件は、コースリーダーの助言のもと、独立行政法人国際協力機構帯広国際センター (JICA 帯広) が計画するコースの実施に関する業務を社団法人北方圏センター (NRC) に委託し、関係諸機関の協力により実施・運営する。技術研修期間中、財団法人日本国際協力センター (JICE) 所属の研修監理員を配置する。具体的業務分担は次のとおり。

(1) JICA 帯広

- ア. 実施計画書作成 (案件目的、案件目標、研修期間等)
- イ. 評価
- ウ. 実施予算の執行管理
- エ. 募集要項および実施要領等の作成 等

(2) NRC

- ア. 日程表の調整・作成
- イ. 講師、視察先等への連絡・確認
- ウ. テキスト、資料等の手配 等

(3) コースリーダー

研修の計画、実施、評価の全般にわたる助言 等

(4) JICE

- ア. 関係者間の連絡調整
- イ. 通訳・翻訳 等

8. 研修の評価

(1) 評価の目的

案件目標（1頁参照）に基づき、研修成果の測定・分析を通じてコース終了時に当初目標の達成度を確認する。また、今後の研修で改善すべき点をあげ、本案件の質的改善を図る。

(2) 評価の方法

- ア. コースリーダー等による到達目標の達成度把握
- イ. 研修員が提出する質問票による評価
- ウ. JICA による評価

(3) 評価会

研修終了時に質問票の記載事項の確認を中心とした評価会を実施する。

(4) 反省会

研修員の帰国後に、評価結果に基づき JICA 帯広、コースリーダー、講師、北方圏センター（NRC）等が参加し、研修の目的・内容、プログラム構成、指導方法等について協議し、翌年度以降の改善に向けて対応方針を検討する。

9. 研修付帯プログラム

(1) ブリーフィング

来日直後に帯広国際センター（以下 OBIC：Obihiro International Center）で実施する。JICA 業務およびコース概要説明、研修員登録、旅券・査証の有効期間の確認、支給される諸手当の説明等のほか、日常生活を送る上での諸注意を行う。

(2) ジェネラルオリエンテーション

OBIC で実施し、日本の社会・歴史・文化・経済・教育・行政などを紹介する。

(3) 日本語講習

研修員の日常生活および国際交流のため、簡単な日常会話程度の語学力修得を目的として 10 時間の日本語講習を実施する。

付帯プログラム日程（予定）

日 程	内 容
10月12日（火）	ブリーフィング
10月13日（水） 午前 午後	ジェネラルオリエンテーション 講義「日本の社会と日本人」 生活オリエンテーションバスツアー
10月14日（木） 午前 午後	ジェネラルオリエンテーション 講義「日本の教育」「日本の経済」 講義「日本の政治、行政」「日本の歴史・文化」
10月15日（金）	日本語講習
10月17日（日）	日本語講習

10. 主な宿泊場所

帯広国際センター（OBIC）

所在地：〒080-2470 北海道帯広市西 20 条南 6 丁目 1 番地 2

Tel (0155) 35-2001 Fax (0155) 35-2213

11. その他

(1) 修了証書

研修を修了した研修員に JICA から修了証書を授与する。

(2) 研修員の待遇

ア. 入国資格

技術研修を受けるために来日する者は研修査証を取得し、滞在中は日本国法規の適用を受ける。

イ. 滞在費

JICA 規程に基づき研修を受けるために必要な手当が支給される。

(3) 国際理解教育

国際理解教育の支援のため、本コースに地域の小中学校の生徒や住民との相互理解のためのプログラムが一部含まれている。

以上

研修員関連情報

研修員情報(英語力はリスニング・スピーキング・読解・記述能力の順に4段階で示す。A:優、B:良、C:可、D:自信なし)

No	①氏名②研修員番号 ③年齢④性別 ⑤国名、県又は地名	①現職②現職期間 ③最終学歴(専攻) ④英語力⑤研修経験	① 候補者の業務内容 ② 所属先の業務内容	研修で学びたい項目
1	① Mr. BARAKI Jawad ② D-10-06481 ③ 26 ④ 男 ⑤ アフガニスタン	① 教育省 小学校理科教員 ② 3年 ③ 教育大学(文学) ④ BBBB ⑤ なし	① 実際の教授法を用い、教材を準備して生物と地学を教えること。日々の生徒の観察 ② [教育省の責務] ・男女を問わず全ての国民に平等で質の高い教育の機会を提供すること ・資金拠出者の協力を受けた、効果的で高い基準の制定による教育の質的向上 ・理数教育をより实际的かつ効果的にするための、理科・技術教育改善と、学校への理科室の設置	・生物・地学の教授方法 ・日本人講師との意見交換 ・教授能力を高めるための新たな経験の獲得
2	① Ms. ROSHAN Soria ② D-10-06482 ③ 30 ④ 女 ⑤ アフガニスタン	① 教育省 高校教員 ② 2年 ③ カブール科学大学(物理学) ④ BBBB ⑤ 二つのセミナーへの参加経験あり(場所、内容などの詳細は記述なし)	① ・授業を行うこと(クラス管理、前時の評価、生徒の動機付け、本時の導入と説明、教師・生徒活動の評価、授業のまとめと次時の確認、宿題の提示) ・月々の生徒の評価 ・中間試験と、進級のための最終試験 ② ・[教育省の責務] 非識字の撲滅、教員の専門性と実験に関する知識の強化、中等教育に関することなど111の項目が定められている	・最新の科学実験により、物理に関する更なる知識を得たい ・特に物理と数学に関心を持っている
3	① Ms. SHAREEFI Nazeefah ② D-10-06483 ③ 45 ④ 女 ⑤ アフガニスタン	① 教育省 小学校理科教員 ② 24年 ③ カブール大学(専攻は記述なし) ④ BBBB ⑤ アフガン教員教育プログラム(ネブラスカ大学、2009年)	① ・学習指導案の作成と授業 ・生徒に対する学習への動機付けと達成の評価 ・教室運営 ・1年生から7年生に対するアドバイザーとしての業務(生徒が職業目標に向け前進できるよう、年間教育計画の完遂を支援し、学校における活動をモニタリングする) ・アフガニスタンの持続的開発、経済成長、安定と治安の獲得への国民の参加を目指す、全ての国民への質の高い教育の均等な機会提供による、イスラムの原理と人権への敬意に基づく人的資本の開発 ② 安の獲得への国民の参加を目指す、全ての国民への質の高い教育の均等な機会提供による、イスラムの原理と人権への敬意に基づく人的資本の開発	・理科に関する自分の知識を向上させたい ・理科教授に関する新たな事柄を学ぶことで、若い世代を教える教員として十分な能力を身に付けたい
4	① Mr. ISLAM Mohammad Nazrul ② D-10-06359 ③ 34 ④ 男 ⑤ バングラデシュ	① 初等教育局 クルナ 初等教育教員訓練機関 教官(理科) ② 3年 ③ Ahsanullah科学技術大学(教育学修士)、ナショナル大学(地理学修士) ④ BBBA ⑤ なし	① ・初等教育教員訓練機関における一般的業務 ・理科授業 ・実習校の監督 ・学校における教員資格研修の監督 ② ・質の高い初等教育の提供 ・バングラデシュの子供たちの身体的・知的・社会的・精神的・道徳的発達、人間性の発達への支援と、職業生活への展望を持たせること	・子供たちの学習環境改善のための、实际的で生活に即した教授プロセスの導入 ・コースに参加する他の研修員の国々における課題とその対処法の理解 ・様々なタイプの近代的教授法による質の高い授業

No	①氏名②研修員番号 ③年齢④性別 ⑤国名、県又は地名	①現職②現職期間 ③最終学歴(専攻) ④英語力⑤研修経験	① 候補者の業務内容 ② 所属先の業務内容	研修で学びたい項目
6	① Mr. GYELTSHEN Kinley ② D-10-05730 ③ 36 ④ 男 ⑤ ブータン	① 学校教育局 教育モニタリング・支援サービス部 教育モニタリング担当官(教育監査官) ② 4ヶ月(現組織には1998年より勤務) ③ マヒドル大学(タイ、教育学修士) ④ AAAA ⑤ 記載なし	① ・学校カリキュラムの見直しと改定 ・学校カリキュラム・プログラム実施状況のモニタリングと支援 ・現職教員向けプログラムの実施 ・教科の専門知識の維持と強化 ・教育フォーラムや出版物による、新たなカリキュラム開発情報やプログラム情報の関係者への普及 ・カリキュラムやプログラムの実施状況調査のための学校訪問 ・様々なモニタリング分野に対応するモニタリングツールの開発 ・モニタリングツールの試用と利用者への普及 ・学校訪問に基づく報告書作成と局長、省への報告 ・学校での現職教員プログラムの促進 ・モニタリング・支援サービスの定期的見直し ・モニタリング・支援サービス調査結果分析への支援と、新たな教育指針作成に関する省への提言 ・各学区や県訪問後のフィードバックセッションの提供 ・教育モニタリング・支援サービス部の影響調査の実施と職員開発プログラムの構築 ・他の部による全国現職教員プログラムへの支援 ・主任監査官の指示による業務の遂行 ② ・持続的かつ継続的な専門的支援による学校改善 ・校長や核となる教員間のネットワークによる、学校自らによる改善の促進	・理科教員が、発見による探求的な学習や、活動による学習により理科を教えられるような、新たな技術や方策を習得したい ・教科の学習内容を実際の活用に結びつけること
7	① Mr. DHAKAL Puspa Raj ② D-10-06242 ③ 34 ④ 男 ⑤ ネパール	① 国立教育開発センター タナフン教育研修センター 教官 ② 4年 ③ トリフバン大学(教育学修士) ④ AAAA ⑤ なし	① ・理科研修の実施と他の教育プログラムのための年間業務計画の作成 ・年間、また一日単位の理科研修計画の作成 ・理科教員研修用材料の収集と教材作り ・試験や観察・プロジェクトなどによる、教員研修生とその他の研修生の評価 ・研修機関の研修プログラム・活動のモニタリング ・理科研修モジュール・パッケージの開発 ・専門性開発のためのアクションリサーチの実施 ・理科教員を含む教員のための、様々な教科に関するワークショップ・セミナーの開催 ・理科教員のための研修におけるファシリテーション ・研修や授業に即した事例の開発 ・研修拠点のための研修講師(トレーナー)名簿の作成 ・理科教員に対する監督、指導と助言 ② ・教育の質的向上のための、効果的教室実践を可能にする教員の能力強化 ・教育的管理の効率と効果を改善するための、適切な人的資源開発プログラムの実施による組織的・個人的能力構築 ・人的資源開発を通じた、教育の質の保障 ・教員を対象とした長・短期の教科研修 ・教育・研修に関する研究の実施 ・学校・研修機関への専門的支援の提供 ・教育管理者・専門家を対象とした管理・専門研修の提供	・身近な材料を使った理科授業・研修のための教材の作成 ・ローコスト、ノーコスト材料を用いた理科実験の実施 ・様々なタイプの理科学習指導案の作成 ・理科研修におけるインターネット通信技術の活用 ・日本や近隣国の理科カリキュラムを学ぶこと ・理科教育の新しい方法や方策に関する知識とスキルの習得

No	①氏名②研修員番号 ③年齢④性別 ⑤国名、県又は地名	①現職②現職期間 ③最終学歴(専攻) ④英語力⑤研修経験	① 候補者の業務内容 ② 所属先の業務内容	研修で学びたい項目
8	① Mr. BAN Gyanendra ② D-10-06243 ③ 41 ④ 男 ⑤ ネパール	① Sanothimi試験管理官事務所 研修・研究・評価部 教官 ② 13年 ③ トリフバン大学(教育学修士、「カリキュラムと評価」専攻)BBBB ④ 「ネパールにおける理科教育の質的向上」(東南アジア) ⑤ 教育大臣機構・教育革新技術センター(フィリピン)、2008年)	① ・理科授業・試験に関する研修マニュアル設計と開発 ・研修の実施 ・生徒評価システムにおけるエラーと問題を最小にとどめるための研究の実施 ・カリキュラム改定委員会にメンバーとして参加 ・全国統一試験(中等教育終了資格)の試験問題作成と採点 ・教室での授業とテストに関する研修での教員支援 ・試験管理官事務所の年間業務計画と予算の設計・実施・報告 ② ・中等教育終了資格試験の全般的管理 ・様々な研修プログラムの組織 ・学校教育における評価に関する研究の実施 ・学校教育における試験システムの国際基準化	・よりよい教えと学びの方策と環境を探り、他の研修員と共有すること ・日本のような開発国における理科のプロセススキル ・建設的理科教授法とファシリテーション技術、革新的学習方法、並びに日常生活における理科の活用について学ぶこと ・理科授業における身近な材料の活用 ・シンプル理科実験活動の設計と、初等教育教員のために設計された研修マニュアルの導入 ・効果的学習指導案の設計と、初等教育研修マニュアルへの組み入れ ・研修における理科実験演示 ・初等理科教育への、プロセススキル、問題解決プロセススキル、生徒の学習達成度の効果的評価ツールの導入 ・初等理科教育専門トレーナーとしての向上 ・初等教育における理科教授の質的向上 ・初等教育におけるインターネット通信技術の活用 ・個人的には特に物理への関心が高いが、業務においては理科分野全般(生物、化学、物理、地学)を扱わなくてはならない。
9	① Mr. ASANALEWAI Kaleelur Rahuman ② D-10-06796 ③ 47 ④ 男 ⑤ スリランカ	① ムトゥール地域教育事務所 現職教員アドバイザー(Eastern Province) ② 10年 ③ ペラデニヤ大学 ④ CCCC ⑤ 記載なし	① ・ワークショップの実施 ・モデル授業の実施 ・評価チームへの参加 ・授業観察 ・書類確認 ・地域教育事務所長の指示による業務の遂行 ② ・教育政策を効果的効率的に実施するための、教育機関への指導と支援 ・東部州の生徒のバランスの取れた人格形成 ・地域内の80校を管轄	・モデル教室を設置し、簡易実験を導入した理科の授業を提案したい。 ・担当地域のMudurは内戦が行われてきた地域で、疲弊と貧困が著しく、教育分野にも大きな影響が出ている。 ・本研修に参加することで得た経験と知識は、Mudur地区の先生方に共有し、地域の初等教育に貢献したい。
10	① Mr. NAWARATHNA Hattuwan Mudiyansele ② D-10-06797 ③ 55 ④ 男 ⑤ スリランカ	① キャンディ 地方教育局 副局長 (NIE)(Central Province) ② 4年 ③ 国立教育機関(NIE)修了(初等教育) ④ ABAB ⑤ 記載なし	① ・教師マニュアルの配布 ・教師向け研修の実施 ・教師のモニタリング/評価など ② ・将来に向けて人格形成と教育を提供し、十分な施設を提供する	・日本の初等理科教育の現在を知り、どのように自分の地域に導入するか検討する ・初等理科実験の知識を獲得し、自分たちの授業に導入する ・地方局の初等教育コーディネータとしてこの経験を教師と職員に共有したい

コースカリキュラム（案）

付表-2

(day)									
項目	カリキュラム	講義	実習	視察	討論	担当講師	講義目的	講義内容	
到達目標1:日本の理科教育現場を理解し、自国への適応可能性を検討できる。									
日本の教育体系、各国の現状と課題	1.5					境コースリーダー	日本の教育体系と現状を理解し各国の現状と課題を考える	教育体系、教育に関する基礎知識と教育に関する現状調査	
コンピューターを通しての教育		2.0				帯広市教育委員会 教育研究所	理科学習の中でのコンピューターの使用例を学ぶ	植物検索ソフト等	
教育現場におけるコンピュータの活用		1.0				イシス システム コミュニケーションズ 近藤 達	理科教育の中でのコンピュータの使用 方法を学ぶ	コンピュータの使用方法	
理科の授業と指導計画の視察 (小規模小学校)				1.0		帯広市立広野小学校	対象国に多くある複式学級における理 科の授業について知る	複式学級で行われている初等理科の授業	
理科の授業と指導計画の視察 (大規模小学校)				2.0		帯広市立啓西小学校 北教大(釧路校)付属小学校	大規模校における視察を通して指導計 画の構成を理解する	大規模校における指導計画と理科授業	
理科の授業と指導計画の視察 (大規模中学校)				1.0		帯広市立啓西小学校 北教大(釧路校)付属小学校	中学校の理科教育の現場を知る	中学校における理科の授業	
学校教育と社会教育	0.5			0.5		十勝教育局生涯学習課社会 教育指導班 とかちプラザ 帯広市図書館	学校教育と社会教育役割分担と協力	社会教育施設訪問	
保育園訪問				0.5		あじさい保育園	自然をいかした保育の実際の視察	保育園訪問	
博物館訪問(釧路／東京)				3.0		釧路市こども遊学館 国立科学博物館 日本科学未来館 東京科学技術館	丹頂先生の実験室(釧路こども遊学館) 博物館の活動の紹介(展示等)	博物館訪問	
広島訪問				1.0		広島平和記念資料館 広島市こども文化科学館	戦後日本の原点を見る	広島平和資料館訪問	
14.0									
到達目標2:初等教育に係わる幅広い理科簡易実験や実習を理解・体験し、実際に実施・開発できる。									
シンプル実験の紹介（視察を含む）		10.0				帯広市児童会館	簡単な素材を使つての理科実験例を学 ぶ	様々な種類の簡単な理科実験	
シンプル実験の開発と観点		3.0				北海道立教育研究所付属理 科教育センター	身近な素材を使つての理科実験の開発 に関する観点を学ぶ	科目としての科学的構想とシンプル実験の目 的	
13.0									
到達目標3:課題設定、課題解決のプロセス、授業評価などの基本要素が含まれており、かつ児童の学習段階に応じた初等理科指導計画を作成できる。									
学習指導要領	0.5					十勝教育局生涯学習課義務 教育指導班	指導内容と理科学習の指導スケジュー ルを理解する	小学校の理科にかかる学習指導要領	
指導案作成指導	6.0					境コースリーダー	指導案の作成の要領についてまなび、 模擬事業を実施する。	指導案の作成要領	
6.5									
到達目標4:理科教育手法の普及にかかるとインテリムレポートが作成される									
インテリムレポート作成指導				1.0		境コースリーダー 帯広市児童会館	帰国後、教育現場で理科実験の実施と 普及の展望をもてる	各人が、それぞれの国の実態をふまえ、どこ で、いつ、どのように理科実験を実施し普及す るか	
研修の成果と今後の展望	0.5					境コースリーダー	研修の成果を確認し今後の展望をもつ	これまでの研修員の活動の紹介と、普及例に ついて	
開発実験最終討論				0.5		境コースリーダー 帯広市児童会館	各人が開発した実験を評価しあい、今 後の開発の方向をつかむ	それぞれの実験がどのような概念理解につな がるのかを、具体的に把握できるようにする	
インテリムレポート発表会				0.5		境コースリーダー 北方圏センター	インテリムレポートを通して研修成果を 理解する	インテリムレポートの発表	
2.5									
その他									
インセプションレポート発表会				0.5		北方圏センター	研修員各員の小学校理科教育の現状 及び担当する業務内容、問題点を研修 員及び関係者が互いに理解する	研修員が自国で抱える問題点の把握、研修員 の学びたい内容の確認	
コースオリエンテーション	0.5					境コースリーダー	コースの目的、スケジュールを理解する	コースの概要説明	
環境教育の現場				1.0		北海道教育大学釧路校	環境教育の実践の場を体験する	釧路湿原を利用した環境教育の現場	
研修講座(理数教育)				0.5		北海道立教育研究所付属理 科教育センター			
ディスカッション・シンポジウム				1.0		北海道教育大釧路校	研修員同士また、日本の学生や有識者 と所等理科教育について意見を交わす ことで、見識を広げる	研修員の母国および初等理科教育の紹介と 教育学部の学生とのディスカッション	
スーパーサイエンスハイスクールの取組み	0.5			0.5		北海道立室蘭栄高校	来を担う科学技術系人材を育てる、理数 系教育の充実をはかる取組みを行って いる高校を視察する。	室蘭栄高校の取組みの視察及び意見交換	
教育分野における国際協力	0.5					JICA人間開発部基礎教育第一 課	JICAが行う基礎教育分野支援について 知る	JICAが行っている基礎教育分野における支 援事業の紹介と研修員との意見交換	
学校訪問(開発教育支援)				1.0		帯広養護学校、音更町立緑 陽台小学校	開発教育支援として	小中学校における国際交流学習への参加	
6.0									

(小計) 8.5 13.0 3.0 3.5

(中計) 42.0

(総計) 44.0
(予定は全44日)

研修日程(案)

日時	時間	区分	カリキュラム	担当機関・講師名	研修場所	宿泊地	
10/11	月		来日			帯広	
10/12	火	09:30-17:10	入館式・集合ブリーフィング	(社)北方圏センター	帯広国際センター ブリーフィングルーム		
10/13	水	09:45-16:50	ジェネラルオリエンテーション				
10/14	木	09:20-18:00	ジェネラルオリエンテーション				
10/15	金	09:30-16:50	日本語講習		帯広国際センターセミナールーム1		
10/16	土						
10/17	日	09:30-16:00	日本語講習	(社)北方圏センター	帯広国際センター セミナールーム1		
10/18	月	09:15-09:45	市長表敬	帯広市親善交流課	帯広市役所		
		10:30-12:00	講義	コースオリエンテーション	境 智洋コースリーダー		帯広国際センター セミナールーム2
		13:30-16:00	講義	日本の教育体系			
10/19	火	09:00-12:00	討論	インセプションレポート発表会	(社)北方圏センター		帯広国際センター オリエンテーションルーム
		13:30-16:00	講義	児童会館①			帯広市児童会館
10/20	水	09:30-12:00	講義	学校教育と社会教育	十勝教育局社会教育指導班 安間 邦雄		帯広国際センター セミナールーム4
		13:30-16:00	講義	学習指導要領	十勝教育局教育支援課義務教育指導班 主査 廣瀬 一仁		
10/21	木	10:00-16:00	講義	各国の現状と課題	境 智洋コースリーダー		帯広国際センターセミナールーム4
10/22	金	10:00-16:00	講義	指導案作成①			帯広国際センターセミナールーム3
10/23	土	10:00-17:00		(ホームビジット)			
10/24	日						
10/25	月		視察	教育施設訪問(小学校・複式校)			帯広市立広野小学校
10/26	火	09:30-12:00 13:30-16:00	実習	児童会館②(水中の小さな生物／化石を調べる)	生物実験室／地学実験室		帯広市児童会館
10/27	水	09:30-12:00 13:30-16:00	実習	児童会館③(物の溶けかた／音と光からの波)	化学実験室／物理実験室		帯広市児童会館
10/28	木		視察	教育施設訪問(小学校・大規模)			帯広市立啓西小学校
10/29	金	09:30-12:00 13:30-16:00	実習	児童会館④(天体学習／葉脈標本)	プラネタリウム／生物実験室		帯広市児童会館
10/30	土						
10/31	日						
11/01	月	10:00-16:00	講義	指導案の作成②	境 智洋コースリーダー		帯広国際センター セミナールーム4
11/02	火	09:30-12:00 13:30-16:00	実習	児童会館⑤(身近な物体の力の現象・いろいろな炎の色)	物理実験室／化学実験室		帯広市児童会館
11/03	水						
11/04	木	09:30-12:00 13:30-16:00	実習	児童会館⑥(月を探ろう／昔の顕微鏡)	地学実験室／生物実験室		帯広市児童会館
11/05	金	09:30-12:00 13:30-16:00	実習	児童会館⑦(化学反応／電気回路と電子工作)	化学実験室／物理実験室		帯広市児童会館
11/06	土						
11/07	日		移動	帯広 → 札幌			
11/08	月	09:00-16:00	実習	シンプル実験教材開発		北海道立教育研究所附 属理科教育センター	
11/09	火	09:00-16:00					
11/10	水	09:00-16:00					
11/11	木	10:50-	視察	北海道室蘭栄高等学校 スーパーサイエンススクール		北海道室蘭栄高等学校	
11/12	金	13:00-16:00	視察	研修講座(理数教育)		北海道立教育研究所附属理科教育センター	
			移動	札幌 → 帯広			
11/13	土					帯広	
11/14	日						
11/15	月	10:00-16:00	講義	指導案の作成③(模擬授業)	境 智洋コースリーダー		帯広国際センター セミナールーム4
11/16	火	09:30-16:00	講義・視察・実習	コンピュータ利用教育①	指導主事 奥山 志穂子		帯広市教育委員会教育研究所
11/17	水	09:30-16:00	講義・視察・実習	コンピュータ利用教育②			

日時		時間	区分	カリキュラム	担当機関・講師名	研修場所	宿泊地
11/18	木	09:30-12:00	視察	教育施設訪問(保育園)	園長 藤本 史代	あじさい保育園	帯広
		13:30-14:30		社会教育施設視察		とかちプラザ	
11/19	金	10:00-12:00	討論	インテリムレポート作成指導(簡易実験の確認)	境 智洋コースリーダー	帯広国際センター セミナールーム4	
		13:30-16:00		インテリムレポート作成指導(簡易実験の紹介)	境 智洋コースリーダー、児童会館講師		
11/20	土						
11/21	日						
11/22	月		移動	帯広 → 釧路 (釧路湿原・阿寒・摩周 環境施設視察)			釧路
11/23	火		視察	環境教育の現場(北海道教育大学釧路校)			
11/24	水			表敬・釧路校副学長	境 智洋コースリーダー	北海道教育大学釧路校	
			討論	シンポジウム(学部生1年生)			
			討論	学生との交流			
11/25	木		視察	教育施設視察	境 智洋コースリーダー	北海道教育大学附属釧路小学校	
11/26	金		視察	指導案の作成④	境 智洋コースリーダー	北海道教育大学釧路校	帯広
11/27	土	13:00-15:30	視察	社会教育施設視察	釧路市こども遊学館	釧路市こども遊学館	
		16:00-18:00	視察	たんちょう先生の実験教室		釧路市こども遊学館4階実験室	
			移動	釧路 → 帯広			
11/28	日						
11/29	月		交流	開発教育学校訪問(帯広養護学校、音更町立緑陽台小学校)	十勝インターナショナル協会 増田・佐々木	帯広養護学校、音更町立緑陽台小学校	
11/30	火	09:30-12:00 13:30-16:00	実習	児童会館⑧(耕作実習Ⅰ・Ⅱ)	発明工作室	帯広市児童会館	
12/01	水	09:30-12:00 13:30-16:00	実習	児童会館⑨(開発実験:発表会準備)		帯広市児童会館	
12/02	木	10:00-16:00	講義	指導案作成指導⑤	境 智洋コースリーダー	帯広国際センター セミナールーム4	
12/03	金	10:00-15:00	講義	教育現場におけるコンピュータの活用	イシス システム コミュニケーションズ 近藤 達	帯広国際センター セミナールーム3	
12/04	土						
12/05	日		移動	帯広 → 東京			東京
12/06	月	10:00-15:00	視察	科学技術館	事業部 松浦 匡	科学技術館	
12/07	火	10:00-12:00	講義	教育分野における国際協力	JICA本部人間開発部基礎教育第一課		
		14:00-17:00	視察	国立科学博物館	植物研究部陸上植物研究グループ長 樋口 正信	国立科学博物館	
12/08	水	10:00-16:00	視察	日本科学未来館	日本科学未来館	日本科学未来館	
12/09	木		移動	東京 → 広島			
12/10	金	10:30-12:00	視察	広島平和祈念資料館		広島平和祈念資料館	広島
		13:00-15:00	視察	広島市子ども文化科学館		広島市こども文化科学館	
12/11	土		移動	広島 → 東京 → 帯広			帯広
12/12	日						
12/13	月	10:00-16:00	講義	指導案の作成⑥	境 智洋コースリーダー	帯広国際センター セミナールーム4	
12/14	火		視察	教育施設訪問(中学校・大規模校)		帯広市立西陵中学校	
12/15	水	09:30-12:00	実習	児童会館⑩(開発実験:発表会準備)		帯広市児童会館	
12/16	木	10:00-12:00	講義	研修の成果と今後の展望	境 智洋コースリーダー	帯広国際センター セミナールーム4	
		13:30-16:30	討論	開発実験(発表会)最終討論		帯広市児童会館	
12/17	金	09:00-12:00	討論	インテリムレポート発表会	(社)北方圏センター	帯広市児童会館	
		12:30-14:00		閉講式 / 閉講パーティ	(独)国際協力機構	帯広国際センター セミナールーム4/会議室	
		14:15-15:15		評価会		帯広国際センター	
12/18	土			帰国			

付表-4

年 度 別 受 入 実 績 表

1. 応募／選定（受入）人数

	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度	累計
応 募 数	18名	15名	19名	14名	13名	79名
受 入 数	8名	8名	8名	10名	9名	43名

2. 研修員の出身国

○男性 ●女性

国 名	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度	累計
ア フ ガ ニ ス タ ン				●○	●●○	5名
ミ ャ ン マ ー	●	○				2名
パ キ ス タ ン	●	○	○			3名
ス リ ラ ン カ	●○○	●○	○○	●●●	○○	12名
モ ル デ ィ ブ	○	●	●○			4名
ネ パ ー ル	○○	○	○○	●○	○○	9名
ブ ー タ ン				○	○	2名
バ ン グ ラ デ シ ュ		●○	○	●●	○	6名
計	5カ国 8名	6カ国 8名	5カ国 8名	5カ国 10名	5カ国 9名	8カ国 43名



独立行政法人国際協力機構 帯広国際センター
〒080-2470 北海道帯広市西20条南6丁目1番地2
TEL : 0155-35-1210 FAX : 0155-35-1250
ホームページ : www.jica.go.jp/obihiro/
メール : jicaobic@jica.go.jp